



セキュアSDブランチで「見えない」状態から脱却し、ネットワークとセキュリティを統合

クローズドな環境から踏み出し、安全で安定したインターネット接続を実現

岩手県盛岡市・滝沢市・矢巾町・紫波町、約5万件に事業を展開する盛岡ガスでは、これまで外部と遮断していた社内ネットワークをインターネットに接続するのを機に、ネットワークとセキュリティを刷新した。FortiGate、FortiSwitch、FortiAPで構成されたフォーティネットのセキュアSDブランチソリューションを全面的に採用し、ネットワークとセキュリティを統合することで、これまであいまいだった社内の通信状況や脅威の実態を把握し、具体的な施策につながる土台が整備できた。

盛岡ガス株式会社

岩手県盛岡市上田二丁目19番56号
 創 立 1930年5月7日
 資 本 金 8,000万円
 従業員数 129人



盛岡ガス株式会社
 総務部 総務課 総務係長
三沢 新司氏



盛岡ガス株式会社
 総務部 情報システム課
金野 真也氏

クローズドな環境で 地元根ざしたガス事業を 展開してきた盛岡ガス

「デジタルトランスフォーメーション」に「働き方改革」といった華やかなキーワードやバズワードが飛び交う一方で、世の中の多くの中小・中堅企業では、足下のIT環境をどう整備するかという目の前の課題に地道に取り組んでいる。岩手県盛岡市・滝沢市・矢巾町・紫波町、約5万件

導入・構築のポイント

- (1) セキュアSDブランチとFortiAnalyzerを活用し、これまであいまいにしか見えなかったネットワークやAPの利用状況を可視化
- (2) パフォーマンスに優れたFortiGateにより、利用者が多いときでも安定した通信環境を実現
- (3) 外部への不審な通信などさまざまな脅威を検知し、防御するFortiGateの機能によるセキュリティ対策の強化

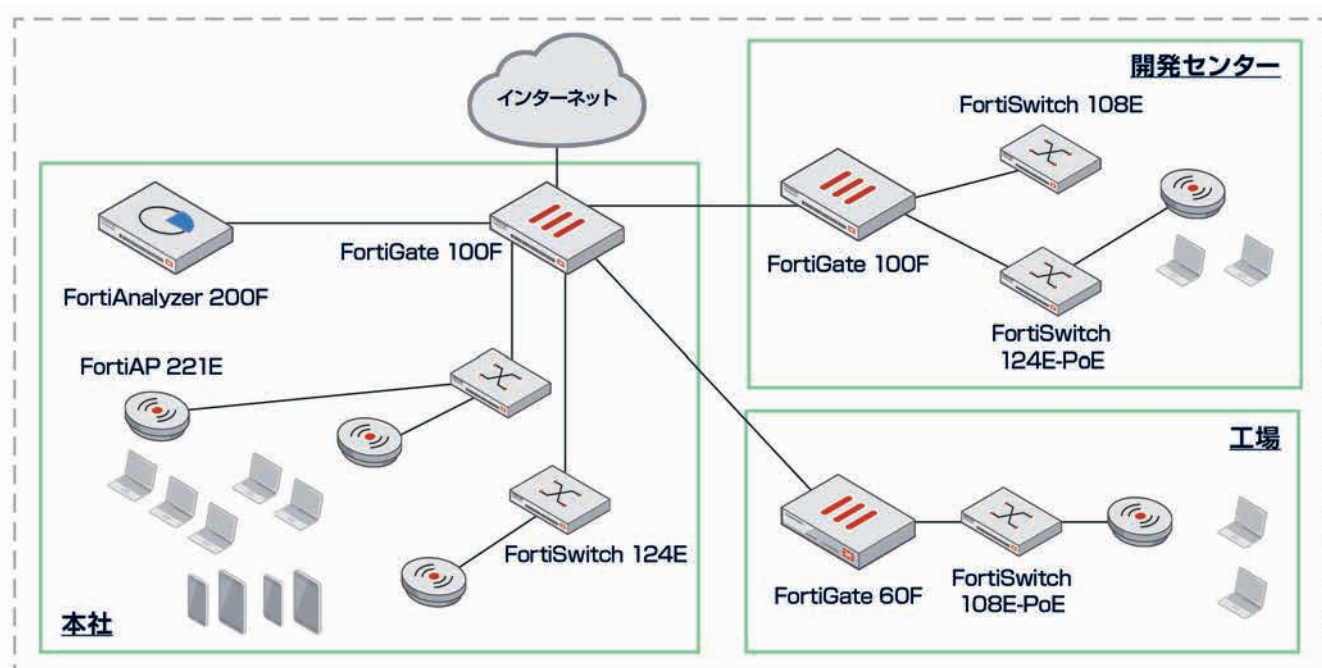
に事業を展開する盛岡ガスも、そうした一社だ。

同社は長年にわたって、インターネットとは切り離されたクローズドな環境でIT基盤を運用してきた。外部に繋がらない社内ネットワークでは、DB、グループウェア、販売管理システムなどを複数のサーバーで運用しており、従業員はこのネットワーク内で業務を行ってきた。これとは別に、お客さま情報を管理するシステムがあり、そこへアクセスできるのは限られた数台の端末とし、セキュリティを担保してきた。インターネットの利用は、別回線を設け別途購入した家庭用ルータにインターネット接続専用のPCを各課に1台ずつ用意し、社内環境とは切り離して運用することでまかってきた。

だが、業務の効率化を考えると、ネットワークを切り離した環境でのインターネット接続には徐々に限界が見え始めてきた。「たとえば営業関係のメールも1台のPCを複数の従業員が共有している状態で、作業効率が悪いという声が上がってきていました」(盛岡ガス 総務部総務課総務係長 三沢 新司氏)。業務効率化を目指し、長年にわたって運用してきた閉域での運用を変更することに決定した。

業務効率化を目指して いよいよインターネット接続を 決断、セキュリティの 強化が必須に

それまで盛岡ガスでは、「インターネットにつながらない環境、外につながらない環境ならば安全だろう」



という考え方に基づいてシステムを運用してきた。この考え方は珍しいものではない。外部からの不正アクセスもマルウェアも、そもそも経路となるインターネットがなければやって来るはずがないからだ。だからといってまったくのノーガードだったわけでもない。そもそもガスという社会の重要インフラを担う盛岡ガスにとって、「安全・安心」は会社のモットーの1つ。地域に根ざし、信頼できる会社であるために、社内サーバーの更改タイミングに合わせ、システムインテグレータの提

案を踏まえて少しずつセキュリティソリューションを導入してきた。まず、インターネットにつながってなくても、USB経由でマルウェアに感染する可能性も考慮に入れ、各PCにはエンドポイントセキュリティ製品とともに資産管理ソフトウェアを導入し、万一の感染に備えて端末の状況を把握できる体制を整えてきた。さらにサイバー攻撃の情勢を踏まえ、エンドポイントだけでなく全体の対策も必要と判断してフォーティネットのFortiGateを導入し、システム全体の保護を図ってきた。だが、社内ネットワークがインターネットにつながるとなれば前提は変わってくる。重要インフラを担う企業として、もっと強固な多層の対策に加え、いざというときに何が起こったかを把握できるログ管理体制と可視化が必要だと考えた。「本社の他に、開発センターともう1か所の拠点をVPNで接続して閉域網を構築していましたが、FortiGateで守っているのは本社の部分だけで、

残る2拠点は入口も出口も守られていないような状況でした」と、三沢氏とともに盛岡ガスのIT環境整備を担当している総務部情報システム課の金野 真也氏は振り返った。加えて、インターネット接続環境の不安定さも課題の1つだった。「市販の無線ルータ経由でインターネットに接続できる環境でしたが、利用者が増えてしまうとルータ側の性能が追いつかなくなってしまい、遅くなったり、つながらなくなる状況が起きていました」（金野氏）

フォーティネットの製品群を全面的に活用したセキュアSDプランチで、ネットワークの利用状況を可視化

こうした状況を根本的に解決するために盛岡ガスが選択した方法が、FortiGateと、FortiSwitchおよびFortiAPを組み合わせたセキュアSDプランチソリューションを使ったネットワーク環境の全面刷新だった。さ



本社内に設置されたFortiGate等の機器



天井に設置されたFortiAP

らにFortiAnalyzerも導入してすべての通信を管理し、ネットワークのどこで何が起きているかを詳細に把握できる環境を目指した。

既に数年間にわたってFortiGateを運用し、十分に効果を感じてきた経験もあって、「フォーティネットですべてネットワークをすべて固めていこう」との方針を2020年11月に決定し、構築作業を開始。従業員が利用する約250台のPCに加え、会社支給のiPhoneをカバーするネットワークを構築し、安定して快適にインターネットを利用できる環境を整備した。同時に、これまでフラットだったネットワークをSSIDで複数に分割。基幹業務用とインターネットでの情報収集業務とを論理的に分割し、セキュリティ面でも強化を図った。

2020年11月から始まった構築作業は2021年1月に完了し、約3か月という短期間で新ネットワークの運用を開始することができた。2021年7月時点でもさらなる機能強化のための作業は継続中だが、構築中にかかわる大きな問題はなく、既存機器との接続に関する課題もなく安定したネットワーク基盤が完成し、利便性・効率の向上とセキュリティの強化、両方の利点を感じているという。「これまで、どうしてもインターネットに接続しなければ利用できないアプリケーションがあると、物理

的にLANケーブルを抜き差ししてインターネットが利用可能なネットワークにつなげる、といった運用を行っていました。移行後は、特に何か設定変更を行わなくても、特定のSSID配下の端末はインターネットに接続を許可するというポリシーに基づいて接続できるようになり、非常に便利になりました」(金野氏)

またセキュアSDブランチとして動作するFortiSwitchとFortiAPにより、今まで正確に把握できていなかったインターネットやアクセスポイントも含めた社内ネットワークの利用状況が「見える化」できたことも大きな効果だ。「状況が見えなければ何もできません。その状態から一歩踏み出すことができました」と三沢氏は評価する。

「以前は、インターネットに接続できるPCが何台あるかも厳密に把握できていませんでしたが、誰がどのようなWebサイトにアクセスしたり、動画サイトを見ているかといったことも含めすべてを可視化できるようになりました。もちろん、以前からの懸念だったログの管理も行えるようになりました」(三沢氏)。インフラ事業者はサイバー攻撃調査のために警察から通信ログの提出を求められることがあるが、そのような要請があった場合にも、対応できる体制が整った。

盛岡ガスは社内ネットワークのインターネット接続を機に、セキュリティポリシーや規定の再整備も進めている。「社員はガスについては詳しいのですが、IT技術となると不慣れな方が大部分です」(三沢氏)。そこで従業員があまり意識せずとも安全に使える環境を整えつつ、ネットワークの利用状況を可視化することで、

利用ルールやリテラシーの向上や不適切な利用の抑止効果につながることも期待している。

ネットワークを運用する立場では、セキュリティ面での効果を実感している。盛岡ガスではファイアウォールとIPS、アンチウイルス、Webフィルタリングと、FortiGateが持つ統合的なセキュリティ機能のほとんどを活用し、アラートを日々FortiAnalyzerで監視している。「おそらく誰かが持ち込んだスマートフォンだと思いますが、『C2サーバーに対する不審な通信が認められたので端末を隔離した』といったアラートが上がることもあります。ブロックしているため実害にはつながっていませんが、こうしたリスクが存在することをあらためて認識しています」(金野氏)という。

また、標的型攻撃に使われる怪しいメールをうっかり従業員がクリックしてしまっても、Webフィルタの機能でブロックされるケースもあった。「きちんとFortiGateが自動的にブロックしてくれているなという安心感と同時に、やはり注意が必要だと気を引き締めています」(金野氏)

クラウド活用をはじめとする今後の施策の「土台」をフォーティネット製品で構築

フォーティネット製品を全面的に活用したネットワーク刷新によっ



滝沢工場にあるユニークなスイカ柄のガスホルダー



て、従業員が業務に必要なインターネット利用をできる環境を整えつつ、セキュリティ強化も実現した盛岡ガス。この取り組みをきっかけに、もっと生産性を高める施策も検討し始めた。

「ガス漏れ対応のようにどうしても現場に行かなければできない業務もありますが、しっかりとしたネットワーク基盤という土台ができたことで、『社内のグループウェアを外部から確認するなど、本格的なテレワーク活用もできないだろうか』といった声が役員からも上がっています」(三沢氏)

クラウドサービスの活用に加え、お客さま情報をしっかり保護しつつ、社内システムと連携して紙ベースでやり取りしていた見積もり処理などをその場でできるようにするなど、スピーディでお客さまにとってもよりよいサービスの実現も検討できればという。

そうしたさまざまな構想が生まれたのも、フォーティネットのセキュアSDブランチによって可視化し、安定かつセキュアなネットワーク基盤が整備できたからだ。「土台さえしっかり作れば、この先、やりたいことがどんどんできると思っています」

と三沢氏は述べ、従業員やお客さまからの要望に答えつつ新たな取り組みを進めていくとした。

「ガスを安全に、安心してお客さまに使っていただくことは当たり前ですが、それだけではなく、セキュリティ対策にも力を入れ、お客さま情報の保護にも取り組んでいきます」(三沢氏)

FORTINET®

フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032

東京都港区六本木 7-7-7

Tri-Seven Roppongi 9 階

www.fortinet.com/jp/contact

お問い合わせ